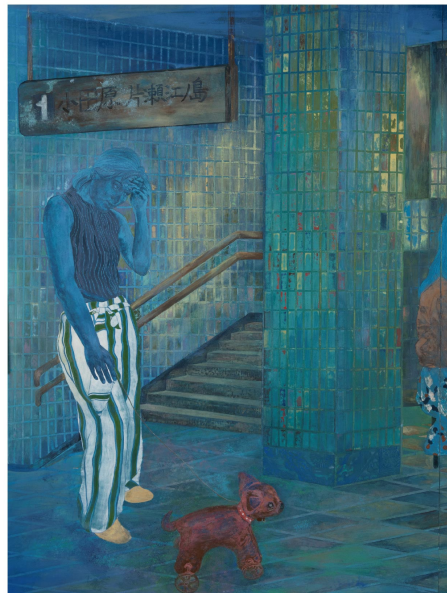


董 玉嬌  
DONG Yujiao



駅

水干絵具、岩絵具、雲肌麻紙



## 駅

私は現代社会の変革の中で、人と社会、人と経済、人と世界  
の関係を作品に描いている。現代社会の変革は、現代人類学  
の進歩と発展に関係がある。これが人類の発展の大きな背景  
にあると思う。私の作品には、人類学が研究対象とする人口  
移動、環境危機、貧困者の生活状況、不良政治及び経済混乱  
の結果などが直接的、もしくは、間接的に描かれている。それ  
らの観察を通して、人間の存在にともなう苦痛と美善を記録  
する。日常の人と物、自然と都市の光景、そして新旧の事物の  
交替の対比を用いて、現代人の心の虚空を際立たせている。

今回の作品《駅》には、小田急線の藤沢駅を題材として、人々  
が集まっておしゃべりをするシーンが描かれている。駅は人生  
の宿場であり、列車は私たちの生命そのもののようだ。その  
ように考えると、一つ一つの駅は私たちの人生における節目  
となる。それぞれの人生の節目で、私たちは出会い、また離別  
していく。個々の生命は滔々とした時間の流れのなかで、はか  
ないものである。この感覚は私の絵の原動力になっている。

描いた情景は駅で偶然に発見した人生の一場面だ。画面  
の右側の人々は集まっておしゃべりをしているが、一人一人  
の表情は漫然としていて、現代生活の孤独感と疎外感を表現  
している。左側には一人の女性がうなだれた様子で立っている。  
彼女からは、おしゃべりをしている人々が見えない舞台を  
形成している。彼女の右上方にある窓明かりに引き立てられて、  
冷えて空っぽな孤独感を漂わせている。そして、手にプラス  
チック製のおもちゃの犬につけたリードを引いている。ピンク  
の犬を引いている彼女は、現代都市の急速な発展を象徴して  
おり、幸福感と安心感の欠如を表している。画面全体の色調で  
ある青色は、私の画面の中に安静で憂鬱な感じをもたらす。  
さらに、細かい色調の変化と他の色との関係は画面に神秘的  
な印象を与え、詩のような叙事と美しさをもたらす。

私は、社会が発展するなかで生まれる、人間の抱える疎外  
感、孤独感、そして、生命のエネルギーを現実的なシーンを  
作品のなかで表現したい。